

三番瀬から見える7000年の縄文人の暮らしと文化

【支援金確定額：200,000円 支援率：78%】

取材日：平成24年（2012年）2月25日

■どのような活動をされていますか？

三番瀬の自然環境は海辺の生物多様性を学ぶことができ、食物連鎖を学ぶ観察が出来る環境です。

市民、子ども達の環境学習が容易に出来る海辺でもあります。

また、自然環境、河川、緑地、まちづくりなど総合的に学ぶことも出来る環境です。千葉県立中央博物館の専門家の協力が得られ市民参加の活動がさらに、活発になります。

楽しい中での確かな学びと、人と人が繋がることも目的の一つです。



特殊望遠鏡で渡り鳥を観察

■支援金をどのように活用されますか？

千葉県立中央博物館と提携して自然観察会、歴史散策、パネル展示、専門家によるミュージアムトークをしました。

また、平成23年6月18日（土）から24日（金）まで、船橋市飛ノ台史跡公園博物館の協力を得て、飛ノ台史跡公園博物館を会場に、地域の小学生から大人までを対象に、三番瀬の海辺から縄文人の暮らしと文化を知るイベント「2011・三番瀬フィールドミュージアム in 飛ノ台」を開催しました。このイベントの際の講師・音楽家・専門家への報償費、展示パネルの作成、案内パンフレットの印刷にも活用しています。



「渡り鳥・冬の観察会」を実施

■今後の活動の抱負を教えてください。

市民、子ども達の環境教育の一環としても広がる干潟環境は、三番瀬の生きものが観察できるフィールドであり、それは生きた博物館です。

千葉県立中央博物館、浦安市郷土資料博物館、谷津干潟自然観察舎市民ボランティア等の協力が得られることになり、年間計画をたてて、継続的に実施することが可能となりました。以前までの市民による観察会をさらにグレードアップでき、資料の蓄積が可能となることを願っています。

今後は参加者の増加を大きな目標にします。特に子どもの参加を増やす工夫をしたいと思います。

～取材を終えて～

今回は、市川塩浜駅から三番瀬を見渡す漁港まで歩き、「渡り鳥・冬の観察会」を行った。

3000⁺の旅をしてくる渡り鳥が一万羽を超える。特殊望遠鏡で沖の干潟に遊ぶ都鳥、背黒カモメなどを見せてくれる。海水をすくうとたちまち沢山の植物プランクトン、動物プランクトン、アミ類など多量のお食物循環の教材が瓶の中に浮かびます。

取材当日はあいにくの冷たい冬の雨でしたが、6名の会員はそれぞれ数十年の経験者で自然を愛する熱気が伝わってきて印象的でした。

■関わり先（連絡担当者）： 共同代表 佐藤 聡子（さとう ふさこ）

TEL：043-310-3300